

月刊 エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2015年(平成27年) 10月号 第14号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 高橋良江
http://www.koureisha-jutaku.com

— Elderly Press Newspaper —

第9回 介護旅行の手間とコスト

「初恋の人を探したい」。介護旅行には、そんな突拍子もない相談が寄せられることがあります。

探偵事務所なら、得意なことかもしれません。が、トラベルヘルパーのように車いすは押してくれません。

「ふるまごの小学校を訪ねたい」「なつかしい友と同窓会へ出たい」

そんな、お年寄りの心の奥底から込み上げてくる思いの強さには驚かされます。

通常の旅行手配に比べると介護旅行の手間は10倍近くかかるといわれ、社会性があっても手間倒れとなって事業としての採算には乗らないというのがよくある感想です。しかし、そこを一般旅行と比べて云々というのは建設的ではありません。

超高齢社会が進み、身体に不自由を覚える人が増え、それを放置しておけば、本人だけではなくて、地域や社会全体が困っていくことは明らかです。これまでのサービスや事業では、ことがたらない人が増えていく中で手間とコストを合わせようという努力は、決して

利用者がヘルパー指名の希望も

無駄ではないと思います。

民間の介護事業者に比べて経営に余裕のある医療法人やアドバンテージをもらっている社会福祉法人は、もっとこうした生活をききさる分野に取り組むべきだと、ある医師がいました。そうしたプレーヤーが増えてくれば、介護になっても人生をあっきらめなくて済む人も増えます。

今年、改定された介護報酬はリハビリの概念を変えたと言われていますが、そうした意図をもって外出支援にも取り組もうという自治体はまだ数えるほどしか見当たりません。

ある介護施設の経営者が「いくつか、ヘルパーを指名できる施設をつくらたい」といっていました。介護旅行のリピーターが7割近いのは利用者の指名の声に応えることなど、自費で行うサービスの自由さを活かして手間を減らし、採算に乗るよう努力しているからです。

▶おでかけ用の福祉用具を使えば、花畑も楽々移動できる。信州にて



安全! 快適! **介護旅行**
SPIあ・える倶楽部社長 篠塚 恭一



1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の従業員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長